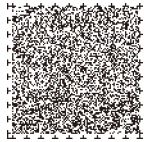




ご自身では劣等生だったという小山さん。「ここまでこられたのは、両親をはじめ恩師や多くの方々の支援のおかげです。今度は私が後輩たちに還元していく番だと思っています。」

ありが

バ ヒューマン ドキュメント



NPO 法人光の会 理事長

【小山 義方】さん

壁を乗り越える力

『NPO法人光の会』理事長の小山さんは、生後2ヶ月の頃に目の異常を感じ、先天性緑内障の診断を受けました。「11歳の春までは色がわかる程度に見えていたんですが、学校での休み時間に周りが真っ赤になり、完全に失明しました。今でもその時のことは覚えていません。」

ラジオを聴くことが好きだったという小山さんは、流れてくる外国の言葉に興味を持ち、英語教師を志しました。当時、点字の問題集はないため、勉強方法も試行錯誤だったそうです。「通常の問題集を点字に直し、両親と答え合わせをするというのを繰り返し、いつ寝て起きたのかわからない生活でした。」勉強以外でも、引っ込み思案な小山さんが教師になるのは難しいのではと両親や先生方は考えていたそうです。ですが、予備校で大きな変化がありました。「予備校では待つてはいるだけでは誰も寄ってきてはくれませんが、本当に勇気がいりましたが、先生に話しかけたことでなにかが吹っ切れ、いつの間にかクラスメ

イトとも打ち解けることができました。」社会福祉学科に進学し卒業後、夢の英語教師の免許を取得。12年間、母校の鹿児島盲学校に勤務しました。「障害を持つ仲間として様々な相談を受けたりもし、生徒のおかげで素晴らしい教員生活を過ごせました。」

英語教師から、福祉活動の道へ

「生徒からの相談で多かったのは、進路の不安です。そこで視覚障害者のために施設を作りたいという次の夢が芽生え、福祉活動への転職を決めました。」周囲の反対を押し切り教員を退職し、法人設立の勉強を始めました。そしてNPO法人光の会は、2017年に障害者の就労・生活の支援、社会貢献事業、啓発活動の3つの柱で活動を開始。「立ち上げ後も、課題をより深く学ぶため、県視覚障害者団体連合会の会長なども務め、全国を回り研修会に参加したり、現地の視覚障害者と交流を深めたりしました。この6年間の活動は貴重な時間となりました。」

小山さんは幼少の頃からバイオリンを習い、音楽の素晴らしさにの

めり込みました。小学校では、担任の先生からアコーディオンを習い、教職に就いた時の初月給でアコーディオンを購入し、現在まで、時間を見つけては高齢者施設など訪問演奏のボランティアを行っています。「長年の活動で、利用者の年代も変わり様々なジャンルの音楽を勉強中です。誰でも楽しんでもらえるように、必死です！」

最後に、障害を持つ子ども達へのメッセージをお聞きました。「やりたいことは素直に大人にぶつけてください。自分の気持ちはとても大切です。また、ご両親は子どもの可能性を信じてサポートしてください。人間の可能性は計り知れません。」と笑顔でお答えいただきました。



今では健常者と組む「チーム小山」というバンドをはじめ4つの音楽グループ活動も行い、小山さんは、福祉団体の会歌の作曲などもしていらっやいます。



今後の目標は、視覚障害者に特化した入居施設の立ち上げと、「音楽と福祉のコラボ」です。障害者への理解と啓発のために情報収集や講演活動も積極的にやっていきたいです。

NPO 法人光の会 (就労支援センターふたば)

〒 891-0114

鹿児島市小松原 1 丁目 4 番 15 号柳元ビル 1F

電話・FAX 099-814-7541

